

帝キネ芦屋映畫

紹介

第百六十八號

て急速に完成せられた「籠の鳥」からヒントを得て脚色してあるが、松屋氏の原案並脚色及び映畫でござり出で居るので若い者には充分受ける一端を英多量に持つて居る。澤園子娘のお糸は埋もれれたを描名花が漸く見出された感がある。美しさに稍たがめたさを感じるが確かに美しい。演技も娘に成り切つて出色の出来であるがまだ下町の娘に成り切つて居ない惜しさがあつた。里見明氏の文雄は嫌味がなくて結構松本泰輔氏の友人は三枚目所にさらつて行く。歌川八重子娘の女給はお手のもので端役ながら素的である。この種の映畫としては上の部に属するものと云ひ得るであらう。

一八月十四日 大阪芦邊劇場

—山本 緑葉—